

No. 11

とらと

一

諸

自由社





母親は ^{モモ} 桃子 ^{カカ} ちやいを抱えろと

トいふ^ニ子は目もくはず

かけ去^サつた、子供達は犬のそばに

「えうわねえ、この犬

「うん、人命救助だ、し

え

「ト母^んまゝとこ、(泣)して

「い、うよ、大抵、何か

「礼しなくちや、悪いよ、ね

「どうよ、くし

11-1

東京都江戸川区臨海五丁目一七十五

永田 為春

電話(三九九)五九一一番



子供達はトムをほめて

いよく ^{モモ} 桃子ちゃんの家へ

あそびそう長 泉の中へは

3 すみかりえゑみになつた

11-1 ^{モモ} 桃子ちゃんに おぼしんが

お菓子をやらう

あ ^{モモ} 桃子ちゃん もう

何ともないよ



11 母さうこの犬にも何ナニか

やりなよこの犬がこたやけ

リヤ 糞クソまぢやいどうたぢが

あかうちあかうぢいぢいぢよ

4 あまうらくこのコなよ

11 ろコトごすうかりぢぢぢ

11 長ナガわ 車クルマぢぢぢおオ礼レイだ

肉ニクぢも買カええやまわし

うウぢまぢがいイよし



母^ハは肉^{ニク}を^カ買^イえ^マし
ト^コに^チ馳^リ走^リし^コく^レた

この大^{イヌ}、こ^ノら^ノ見^ミない

大^{イヌ}げ^キど^トこの大^{イヌ}か^カら^ラ

5
—^コう^ウせ^セね^ネ ど^トこ^コか^カら^ラ

11
春^{ハル}は^ハい^イだ^ダら^ラう^ウぞ^ゾも

利^リ巧^{コウ}な^ナ大^{イヌ}せ^セね^ネ

花^{ハナ}多^タね^ネし



11-5

一方 ^チち ^エえ ^マま ^ハは ^女女の ^頃頃

易者 ^ノの ^家家の ^末末 ^ノの ^子子 ^モも

近 ^カか ^クく ^ノの ^云云 ^ハは ^ニに

遊 ^ビび ^ニに ^来来 ^テて ^ンん

姉 ^チち ^ヤや ^ニに ^ああ ^スす ^テて ^ハは

11 ^シし ^クく ^速速 ^ホほ ^ウう ^シし

4 ^エえ ^子子 ^シし

東京都江戸川区鹿野五

永田為春

電話(三三九)五九一一番

七一五



「まあ幸代ちゃん勉強
しなくちゃ駄目よ。勉強
おしでから。おひさまいね
アノヤツもうおしおひし
—から帰るッし
「おいねこといそいそ勉強しな
けりやんけなわ、まあ

帰りましたッし

「おやッ

11-6
「おのせのまを向へに素母
の言葉にすねッし

東京都江戸川区鹿骨五丁目 七十五
永田 為春
電話(美七)五九二一番



その母と子の話を

ちえ子はじいつと

見つめしん長 すわる

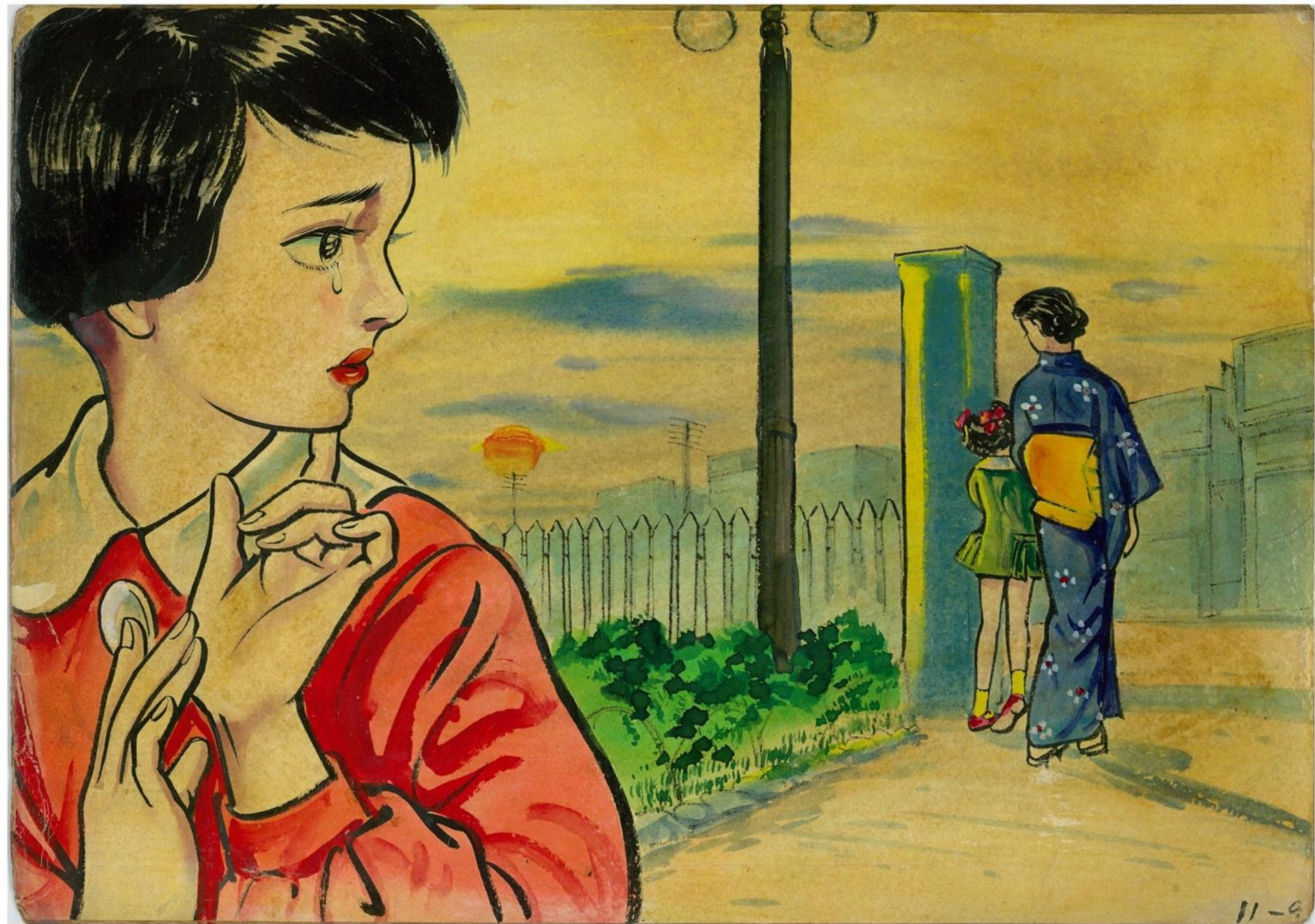
子もやししく 土とす

お母さんの言のこもる

言葉は 淋！かな！

ちえ子の心に深くしみ

入るゆくの長



せまは、とうくお母さん。
やまー！言。葉にすわちが
らもしぶく。まひたそ

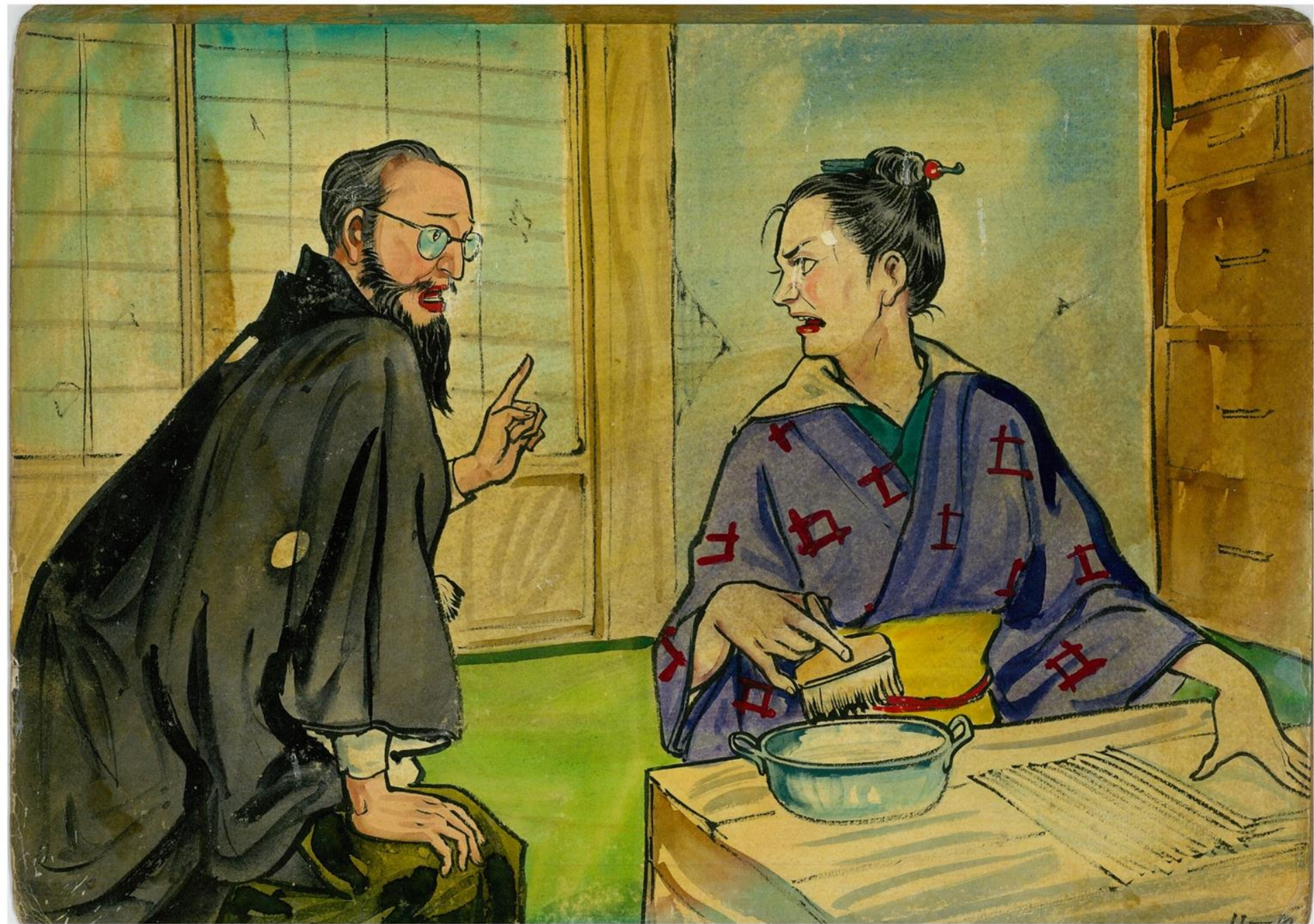
帰^{かへ}えーゆく

あ、お母さん。やまー！

お母さん、私にはあの

やまー！お母さんかきい

のたし
その頃



白
天
雲
山
堂



11-10

姉ちゃん どうしての早く

お家へ入ろうよし

天雲堂のふは不審そう

にちえ子を見上げた

だがちえ子は中の二人の

話をキラッしまつた

あるあー私は此の家にも

いられないのがしらしと

さてこのかわい相な千恵子

はどうなるでしようか

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七十五
永田 為春
電話(三六七)五九一一番

11-12

トムと

一諸に

第十一卷終

東京都江戸川区鹿骨五丁目一七五

永田為春

電話(三七七)五九一一番